

第3回 宮津まちづくり会議

日時：平成26年5月19日（月）

場所：宮津商工会議所 第5会議室

■ 協議事項

(1) 前回までのまとめ

※別紙資料1参照

前回までの協議事項の再確認を行ったうえで、委員間での意識共有を行った

○エリア・・・まちなか

○期間・・・三年程度で「見える化」

○ポイント・・・地域資源を活用し、交流人口の増加を目指す
市街地を天橋立と連動した観光地へ
ソフト、ハード両面での受け入れ体制の強化
PR活動の強化

(2) 最近の動き、既存計画の説明

※別紙資料2参照

既存の計画を再認識したうえで、「宮津まちづくり会議」が目指すべき方向性を確認

【目指すべき方向性】

「地域資源」を活用し、「交流人口」を増加させることによる地域活性化

【主な意見】

○伊根航路の開通、文殊地区の整備等、周辺の動きも踏まえながら、市街地のまちづくりを進めなければならない。

○地域の方目線でのまちづくりを進め、地域の方が交流することにより、地域外の方にも魅力を感じてもらい、交流人口の増加を目指すものとする

(3) 今後、協議していく上での視点

※別紙資料3参照

目指すべき方向性を実現するためのスローガン及びコンセプトについての意見交換の上、北前船の時代から続いてきた「人と物が行き交う商いのまち」を念頭に地域活性化を実現していくことを確認

【主な意見】

- 宮津市は近年まで、丹後地域の中核都市として、人と物が行き交う「商業地」として発展してきた
- 北前船の主な寄港地は由良地域であった、そこで降りた人や物が市街地を潤し賑わってきた歴史がある

【次回会議での協議事項】

スローガン、コンセプトの策定については、「海」「つなぐ」「松」等、いただいた意見を基に事務局で協議したうえ、次回会議で再度協議するものとする

(4) 今後、協議していく上での組み立てを決定

今後、「まちなか」のまちづくりを行っていくにあたっての視点、柱立て等について整理 ※別紙資料4-1 参照

- 必要な事業群を洗い出したうえで、宮津まちづくり会議として、まずは取り組むべきリード事業を交通の要所である「浜町周辺のにぎわいづくり」に決定

(5) 今後の進め方について

- 「浜町周辺のにぎわいづくり」を進めていくうえで、今後は浜町地区をにぎわいづくり拠点として再構築していく「浜町の再構築 WG」と、にぎわいづくり拠点を活かした周辺のまちづくりを進めていく「浜町周辺の活用 WG」の二つのワーキンググループで具体の事業について協議していくことで決定

- 各委員の方は、協議を進めていくうえでのリーダーとしていずれかの WG に参加

※ワーキンググループの役割

- ・事業の担い手となる者と共に具体的な事業実施計画を策定すること
- ・事業を実施していくための各々の役割分担を決めていくこと

- 今後は、先進事例などの意見を取り入れるため必要に応じて外部有識者をアドバイザーとして参加いただくことを合意

- 市が進めているビジターセンターの整備については、浜町周辺の再構築に合わせて、デザイン等について意見を述べていくことを合意

- 今後の協議等のスケジュールについて

京都縦貫道、浜町～伊根航路、ビジターセンター等、宮津を取り巻く環境の変化がある中で、これを最後のチャンスと捉えて、スピード感を持って進め、三年程度で賑わいの「見える化」をしていくものとする